

C-34 裏地に関する研究 (第3報)
—ポリエステル裏地について—

都立立川短大 石毛フミ子
実践女短大 ○中村 洋子

1. ニット製品につける裏地としてストレッチの裏地が考えられる。縫製上必要な諸性能ならびに縫いつれ、縫いずれ等について、ストレッチと平織の裏地を用いて比較検討をおこなった。

2. (1)実験材料はポリエステル100%のストレッチと平織のもの2種、テトロン糸80番、羽二重糸80番、ミン針9番である。(2)実験項目A性能 a) じょうぶさ(破断強度、折り目摩擦強度) b) 型くずれ(収縮率、防皺度、伸長弾性度) c) しなやかさ(剛軟度、ドレープ性) d) なめらかさ(表面摩擦係数) e) 扱いやすさ(ほつれ、アイロンかけ効果) B縫いつれおよび縫いずれ、(3)実験方法としてはa)~d)はJISによる、e)は独自の方法でおこなった。縫いつれ、縫いずれは、針目の大きさ5針/cm、回転数400回、800回、1,000回の3種、張力、上糸テトロン、羽二重とも70g、下糸テトロン45g、羽二重30gで測定は直後、1日後、1週間後とし、同一試料について5枚の平均値を求めた。

3. A a) 平織よりストレッチの方が大である。b) 収縮率、伸長弾性では両者ほとんど変化なく、防皺度でストレッチのよこ方向でやや大である。c) ストレッチが大である。d) ストレッチがすべりにくい。e) ほつれでは、両者とも変化なく、アイロンかけ効果で平織がややよい。B ストレッチのたて方向において糸、回転数による変化は少なく、よこ方向で縫いつれより布の伸びがみられた。平織は、たて方向、よこ方向とも縫いつれは、ストレッチよりやや大で縫いずれは小さいことがわかる。